

○平成28年3月30日に閣議決定された「明日の日本を支える観光ビジョン」において、**北東アジア海域をカリブ海のような世界的なクルーズ市場に成長させ、クルーズ船の寄港を活かした地方の創生を図ることとされている。**

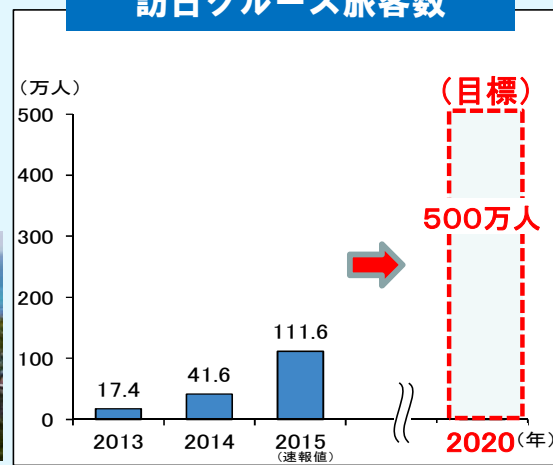
目指すべき将来像

カリブ海クルーズの様子



提供：Royal Caribbean International社

訪日クルーズ旅客数



現状・課題および今後の対応

現状・課題

- 増大するアジアのクルーズ需要を取り込み、クルーズ船の寄港が地域経済に与える効果を拡大することが必要。
- クルーズ船が寄港するための港湾施設や、クルーズ船の寄港に伴い発生する諸課題への対応が不足。
- 寄港地が西日本の一部の港に集中する傾向がある。



**日本の各地をカジュアルからラグジュアリーまで幅広く対応したクルーズディスティネーションに
～瀬戸内と南西諸島を日本のエーゲ海・カリブ海に～**

今後の対応

- **北東アジア海域をカリブ海のような世界的なクルーズ市場に（訪日クルーズ旅客を2020年に500万人、日本の各地をカジュアルからラグジュアリーまで幅広く対応したクルーズディスティネーションに）。**
- ・クルーズ船寄港の「お断りゼロ」の実現（クルーズ船の受入環境を緊急整備（2015年度・全国10港）、クルーズ船寄港地マッチングサービスの提供等）
- ・世界に誇る**国際クルーズの拠点形成**（旅客ターミナル整備への無利子貸付制度の創設等）
- ・瀬戸内海や南西諸島など新たな**国内クルーズ周遊ルートの開拓、ラグジュアリークルーズ船の就航**
- ・**新たなクルーズビジネスの確立**（官民の関係者からなる地域協議会や全国クルーズ活性化会議の活用、農水産物の販売環境の改善、「みなとオアシス」の活用、港湾協力団体制度の創設 等）
- ・全国クルーズ活性化会議と連携し、**寄港地の全国展開**に向けたプロモーション